

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2771900632
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 奏音 (かのん)
訪問調査日	平成 19 年 9 月 25 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2771900632
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 奏音 (かのん)
所在地	大阪府大東市御領 1丁目10番18号 (電話) 072-870-0316

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(19年 7月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

(4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	石川クリニック、長瀬診療所、ゆん歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

他施設での経験から「ありのまま その人らしく 高齢者に こちよい暮らしを」という思いから有志(介護福祉士)の5人が集まり、有限会社ユニゾン(ユニゾンは、同じ音の高さで同じフレーズを演奏すること)を設立し、平成15年9月1日大東市で第1号として「グループホーム奏音(かのん)」は開設した。オープンな事務室を中心に、ケアの動線を考慮したケアのしやすいレイアウトになっている。手すりは、必要最小限で、目立たない。又、床は、転倒時に、衝撃を吸収するクッションフロアになっており、居心地良く、安全面に配慮している。常勤の職員を多く配置しており、利用者にとって、馴染みの関係が作りやすく、家庭的でしかも質の高いホームになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①書類の見直しを行い、申し送りノートを活用している。②地域との交流や啓発のため、当グループホームの見学会に際して、近隣の方々へのちらしの配布等呼びかけを行っている。近くの子サービス等のイベント参加を行っている。又、当地区の認知症サポーターを担っており、講習会を開催している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義を十分に理解し、代表者・管理者をはじめ全職員の意見を出し合い、より良い介護を行うための改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、市担当者で開催について、要請中であるが、毎月、市役所へ出向き、高齢福祉課課長等と、定期的な情報交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時や家族会にて意見・要望を確認し、又、家族アンケートで情報を収集し、カンファレンス・運営計画に反映させている。毎月、月次報告書・受診報告書・請求書を送付し、金銭管理必要な方には、本証を送付している。グループホーム便り「奏音しらべ」(半年に一回発行)を送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	旧村地域のため、近隣住民の理解は、早急には得にくいだが、当グループホームの見学会に際して、近隣の方々へのちらしの配布等呼びかけを行っている。近くの子サービス等のイベント参加を行っている。又、当地区の認知症サポーターを担っており、講習会を開催している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ありのまま その人らしく ここちよい暮らしを」という事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域住民との交流の下でその人らしく生活を支えるケアを行っている事を理念に盛り込み、全職員に周知する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入ったすぐ前が事務所になっている。理念として「ありのまま その人らしく ここちよい暮らしを」の額が大きく掲げてあり、代表者・管理者・職員共々丸となって、利用者本位の介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当グループホームの見学会に際して、近隣の方々へのちらしの配布等呼びかけを行っている。近くのデイサービス等のイベント参加を行っている。又、当地区の認知症サポーターを担っており、講習会を開催している。	○	旧村地域のため、近隣住民の理解は、早急には得にくいだが、地元の人々との交流するための地道な努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を十分に理解し、代表者・管理者をはじめ全職員の意見を出し合いより良い介護を行うための改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市担当者で開催について、要請中である。	○	運営推進会議を早く立ち上げられる様、各方面に呼びかける事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市役所へ出向き、高齢福祉課課長等と、定期的な情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、月次報告書・受診報告書・請求書を送付し、金銭管理必要な方には、本証を送付している。グループホーム便り「奏音しらべ」(半年に一回発行)を送付している。出来れば、グループホーム便りの発行回数を増やすが望まれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や家族会にて意見・要望を確認し、アンケートで情報を収集し、カンファレンス・運営計画に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者一人ひとりに担当者を決められている。又、殆どの職員が常勤で異動も殆どなく、利用者にとって、馴染みの関係が出来上がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修共に受ける機会は確保されているが、書類のまとめが、十分出来ていない。	○	内部研修の取り組みを生かすため、研修報告書・年度ごとのファイル等、記録の整備をすることが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大東市にある他のグループホームを訪問し、意見交換を行っている。グループホームの運営委員会の共催を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、面接・見学・体験入所等を行い、利用者の生活暦を大切に、本人及び家族との信頼関係を築ける様に努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	気さくな声掛けや、ゆったりした態度で、家庭的な雰囲気を出し、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人や家族の希望を取り入れ、アセスメント表や介護計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来るだけ本人からの要望を聞き、困難な場合は、職員全体・家族と話し合い、介護計画を作成している。適宜、緊急カンファレンスを開催している。半年～1年に1回は、家族参加で、ケアカンファレンスを開催している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適宜、緊急カンファレンスを開催し、介護計画を見直し、家族の同意をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望等に応じ、一人での外出支援や移送サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れながら、2週間に一回の往診を受けている。急変時や夜間は、対応する医療機関を受診する体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、利用者・家族と話し合いを持ち、「看取り介護についての同意書」を頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の状況をよく把握し、一人ひとりに合わせて対応している。利用者・家族の個人情報、鍵付きロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は、取り決めないで、利用者の生活ペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・食器の配膳・後片付け・食器拭き等、利用者の出来る事・利用者のやりたい事を尊重し、一緒に行っている。茶碗・湯のみ・箸等、個人持込となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、午前以外であれば、曜日・時間は、利用者の希望に合わせて、行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人又は少人数で、利用者の嗜好・希望や状況に合わせた個別アクティビティを提供している。洗濯たたみなどの家事作業や、散歩、オリジナルな奏音体操・音楽療法士による音楽教室等多彩である。利用者の希望にあわせて、新聞3誌を揃えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、公園やコンビニに出掛ける。グループホームの玄関前にベンチを置き、日なたぼっこが出来る。春夏には、海遊館等日帰り旅行もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵をかけないので、利用者は、自由に出入りが出来る。玄関と事務所が一緒になっているため、出入りの確認が出来るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、職員と利用者が、一緒に訓練を行っている	○	地域の人たちの協力を得られるよう、消防署と一緒に(出来れば、近隣の人も)参加する消防訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在要介護5の利用者が3人おられるが、状態に応じ、キザミ食・ペースト食・トロミ付け等、個々に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・調度品や雰囲気等グループホーム全体が、普通の家庭的な空間になっている。時間により、音量や明るさを調整している。1・2階に椅子・ソファを配置、玄関前にベンチを置きこちよい居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室明るいレイアウトになっていて、居室の家具・調度品の持ち込み自由である。		